

会派研究研修・視察調査報告書

平成 30 年 7 月 23 日 (月)

常滑市議会議長 殿

会 派 名 公明党議員団

会派の代表者 加藤代史子



会派等研究研修・視察調査計画を次のとおり報告します

記

- 1、視 察 期 日 平成 30 年 7 月 11 日 (水) から 7 月 12 日 (木)
- 2、視察先及び研修内容 全国地方議会サミット 2018 (早稲田大学大隈記念講堂)
- 3、参 加 者 加藤代史子
- 4、行 程 常滑駅→(名古屋鉄道)→中部国際空港駅→中部国際空港→(空路)
→羽田空港国内線ターミナル→(京急電鉄・東京メトロ)→早稲田駅
→早稲田大学 (全国地方議会サミット 2018)
早稲田駅→(東京メトロ・京急電鉄)→羽田空港国内線ターミナル
→(空路)→中部国際空港→(名古屋鉄道)→常滑駅
- 5、経費について

常滑駅→中部国際空港駅	310 円
中部国際空港→羽田空港国内線ターミナル	※①
羽田空港国内線ターミナル→早稲田駅	760 円
早稲田駅→羽田空港国内線ターミナル	760 円
羽田空港国内線ターミナル→中部国際空港	※②
中部国際空港→常滑駅	310 円
宿泊費	※③
航空券往復 (①+②) + 宿泊 (③) =	24,700 円
参加	10,000 円
合計	36,840 円



「全国地方議会サミット2018 議会のチカラで日本創生」

公明党議員団 加藤代史子

日時 平成30年7月11日（水）から7月12日（木）

場所 早稲田大学大隈記念講堂

1日目

基調講演 「地方議会から日本を変える」

北川正恭 早稲田大学名誉教授

スマート自治体への変換が求められている（ロボット、AI、職員数削減）。今後、システムの標準化や共通化が求められる。地方圏の圏域マネジメントが必要である。地方自治法の改正により、条例で決定すれば議会の承認事項となる。プレミアム商品券は多くの自治体で実施されたが、地方創生として成果があったのかどうか。

特別講演は野田聖子総務大臣は欠席で事務官からの話に変更。

講演 「真の地方創生とは何か」

片山喜博 早稲田大学教授/地方創生と地方議会の役割

大西一史 熊本市長/震災復興と地方創生

北川正恭 早稲田大学名誉教授

大西市長からの熊本城の復興への話で10万の石垣を20年かけて積み上げていくという話はびっくりしました。また今回の災害では、避難所に入りきらない方がいたそうで、想定外の災害への対応の難しさを語られた。

公助には限界があり、共助・自助とのベストミックスが必要との話は、今後の災害対応への重要なカギとなると感じました。

課題整理 「地方創生時代に求められる議会力」

江藤俊昭 山梨学院大学教授

新しい議会としての魅力を議会として発信し、議会からの政策サイクルが必要であり、その政策サイクルの基点に市民をおくことが重要である。議会改革の真理は地域民主主義である。また、議会基本条例もつくっただけでなく、再検討していくことが必要。との話で、議会基本条例の見直しを早急にする必要があり、議会をチームとする、議会としての今後の働きについて議員間討議の必要性があると感じました。

パネルディスカッション 「議会力強化のための、議会事務局の変革」

小林宏子 東京都羽村市議会事務局長

5万6千人の人口、議員18名、事務局6人。委員会規則がまだ決められていない。全国標準規則に沿って見直しが必要である。

清水克士 滋賀県大津市議会事務局次長

現在議会改革トップクラスであり、議会BCPも作成している。議員と職員との対話は重要である。多くの情報を情報公開で市民の目にふれるようにする。

2日目

先進事例報告 「地方創生をリードする議会へ」

目黒章三郎 福島県会津若松市議会議員 /住民との対話から課題解決へ

議会基本条例策定から10年「住民自治を進めている。議会制度委員会に市民委員にも参加してもらい、意見交換会を実施。分野別意見交換会として各種団体との意見交換会も実施。9月の決算、3月の予算には議会として「附帯決議」をつけている。市民モニター制度も実施している。

子籠敏人 東京都あきる野市議会議員/広報改革から展開する議会改革

まず広報紙に関心をもってもらうため、わかりやすくする。また、議案報告も全て羅列するのではなくピックアップして掲載し、文章は5行以上にしない、写真でわかりやすくする。記事として、小学生に「聞かせてあなたの未来」と題して文を依頼、掲載すると、その地域の大人が、関心を持ち、新しい読者の開拓ができる。紙面にはこだわり、特に表紙には「手に取ってもらう」ためにどうするかを考える必要がある。小さな改革の積み重ねが大きな改革となる。議会として駅での広報活動を定期的に行い、議会だよりは新聞折り込みに入れ発信。

議会災害マニュアルも策定している。

ビアンキー・アンソニー 愛知県犬山市議会議員/自由討議で委員会提言

全員協議会での議員間討議を大切にしている。議場での「市民フリースピーチ制度」と取り入れている（平成30年3月議会より）。犬山市では議長マニフェストを大切にしている

川上文浩 岐阜県可児市議会議員/委員会代表質問と政策サイクル

議会BCPを策定し、BCPによる訓練も実施している。議会のチカラが地域の未来を創る。住民福祉があがるかどうか重要である。

所管

各議会の先進事例を聴いて、まずはやれることからやらなければと思いました。議会BCPを作り、実質訓練を実施するまでやらなければと。全会一致で実施していくには課題もありますが、改革を止まらせることなく少しずつでも進めていく、それが市民への理解となり、議会の議員の必要性を理解してもらうことになると思いました。まず広報委員でもあるので検討から始めたいです。

先進事例報告 「政策を実現する議会へ」

尾崎大介 東京都議会議長/条例マニフェストと議会改革

東京都では127議席あり、条例提案されるも否決され、なかなか実現しない。議会改革検討委員会を立ち上げ、以前は公務以外にも使用できた公用車使用を整理し、公用車の台数削減の実施もできた。政務活動費も新年会には使えないなど、少しずつであるが改革をしている。東京オリンピックに向け、「受動喫煙防止条例」も実現できた。この実現は20以上の団体からの反対があったが、実現することができた。目黒区での事件を受け今年度中に「児童虐待防止条例」を実現したい。20%議員報酬削減も実施しているが、%を合わせるのも大変困難な状況であったが粘り強く対話し、実現できた。

松本研 横浜市議会議長/議員提案条例による政策実現

東京、横浜ともおおきな議会での苦労を聞かせてもらったが、地方議会に比べ全く改革が進んでない実態に驚いた。都民の関心もないため、変える必要性もないのかも。もっと都民の皆さんに関心をもってもらい、誰のために働くのか危機感をもってもらいたいと思いました。

講演 「海外の議会制度から議会の多様性を考える」 中林美恵子 早稲田大学教授

パネルディスカッション 「多様性ある議会に向けた実践と課題」

本間まさよ 東京都武蔵野市議会議長 26名中11名が女性

女性議長として今年6月議会より、議会傍聴中の託児サービスをスタート

岩永ひさか 東京都多摩市議会議長 26名中11名が女性

議員になってから未婚で出産。議会は休まず出席している。ポスト制ではなく政策で選ぶための発信が大事。

白川静子 神奈川県茅ヶ崎市議会議長 28名中8名が女性

1期2期の議員が半数を占めている。女性議員の歴史は古く昭和26年からの実績がある。重い障害を持った議員が当選し規則の改正など早急に対応した。

南千晴 群馬県榛東村村議会議長 37歳現在臨月 ビデオメッセージ

今から産休にはいる。条例の改正で産前、産後の育児休暇を条例で制定した。

今回4人の女性議長の話から多様性のある議会が今まさに求められているのだと思いました。市民の代表であるのだから多様性は当たり前で今まで排除されていたのが不思議なくらいです。女性も障がい者もそれぞれの代表であるのですから。議場のあり方もその都度形を変える必要があり、受け入れできる体制が必要。バリアフリーは当たり前、多様性に向け議会もかわっていかねばと思いました。

今回の研修は事例報告が多く大変わかりやすく、また議会改革の進みかたも多様でしたが、今議会が、議員が求められているものを理解し、議会が一丸となって変わっていかねばならないと強く感じました。